

目指す学校像	児童・教職員・家庭・地域が共に育つ楽しい学校
重点目標	1 生徒指導・道徳教育の充実、人間関係づくり 2 魅力ある学級経営・子どもたちが向上する授業づくり 3 安全・健康教育、食育の推進 4 地域に開かれた教育活動 5 教職員の研修と協働 6 学習環境・カリキュラム等の工夫

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	全校児童 104 名の小規模校で、全学年単学級の学校であるため、卒業まで同じクラスメイトとのかかわり合いになる。お互いのことを分かり合える半面、一度人間関係が崩れると、その後の学校生活に大きな影響を与える。 また、自学級以外のかかわりは、すべて異学年交流となることから、学年の枠を超えたつながりを造ることができている。 ただ、多様な考えに触れる機会が少なく、一度作られた人間関係からの脱却も困難である。	一人ひとりの良さを認め合う、豊かな人間関係づくり いじめや長欠のない学校づくり	お互いの良さを実感できるよう、人間関係プログラムや G・S の授業を中心に、他者とのコミュニケーション活動を取り入れる。 ・「いじめはどの学校でも起こりうる」という考えのもと、毎月の生徒指導委員会や簡易アンケート等を用いて、実態を把握する。 ・SC や SSW を効果的に活用し、教育相談体制を充実させる。	・心と生活のアンケートで「スキルグラフ」「信頼感グラフ」共に右上方に分布。 ・学校評価の保護者アンケートにおいて「教育相談体制に係る項目で、肯定的回答 90%以上」。 ・学校評価の教職員アンケートにおいて「生徒指導の充実」に係る項目で肯定的回答 100%。				
2	各学級 20 名程度であるため、担任は一人ひとりと向き合う時間も多く、少人数での指導が可能となるため、きめ細やかな指導ができている。 学力は市の平均よりも低い傾向にあり、その学年における基礎的・基本的な内容の定着が図られる指導、授業づくりが課題となっている。	児童が自己実現を重ね、自分の成長を具体的に把握し、自己肯定感を感じることができている教育活動の推進。 ICT を活用し、主体的に学習に取り組む児童の育成	・各教育活動を行う際に、児童に具体的な目標を設定させ、活動後には振り返りを行うようにする。 ・一人ひとりの学びの足跡を残す OPP シートの活用 ・学習場面に応じてデジタル教材(デジタル教科書、スタディサプリ等)を効果的に活用する。	・学校評価の児童アンケートにおいて「自分から進んで学習している」の肯定的回答 90%以上。 ・児童が回答するよい授業のアンケートにおいて、「ICT の活用」の項目で肯定的回答 90%以上。				
3	全校児童が少なく、学区が広域であるため、遠いところでは、40 分程度かかる地区もある。そのため、登下校での安全の確保が難しい。特に、低学年と高学年で下校時刻が違う日には、一緒に下校する児童が少なくなる傾向がある。 歯科治療率があまり高くないので、高めていくことが喫緊の課題となっている。 地域の農家の方からの協力が有り、農業体験等は充実している。	歯科治療率の向上 瑕疵による児童のけが防止の徹底。 地場産の食材やヨーロッパ野菜の育成などを取り入れた食育の充実。	・業前に月 1 回保健指導を実施する。 ・保健だより等で情報提供し、家庭の協力を呼び掛ける。 ・学校保健委員会を年 2 回実施し、専門の講師による講演や日頃の保健指導についての協議を行う。 ・毎月の安全点検を確実に実施し、修繕箇所は速やかに修繕するなど、施設管理を徹底する。 ・ヨーロッパ野菜の育成を中心とした食育の研究を行う。 ・学校ファームを有効活用し、児童自らが野菜の育成に関わる機会をつくる。	・歯科治療率 80%以上を目指す。(昨年度 71.8%) ・瑕疵による児童のケガ、事故をゼロにする。 ・2 年生はサツマイモ栽培 ・3~6 年生はじゃがいもやヨーロッパ野菜の栽培 ・5 年生は米の栽培などを実施する。				
4	歴史ある学校であり、地域との関係も密である。学校の取組に協力的で、様々なボランティア活動が充実している。 地域の協力者の高齢化が進んでおり、新たな地域人材の確保が課題となっている。	学校・地域が共に育つコミュニティ・スクールの充実	・学校運営協議会において熟議を確実にし、あいさつ運動等の地域学校協働活動を実施し、学校経営に関する評価を得る。 ・学校ホームページを活用し、学校経営方針を掲載するなど、学校の情報を共有する。	・学校運営協議会の年 3 回の実施。 ・学校評価アンケートの「あいさつ」に関する項目で、肯定的回答 90%以上。				
5	学校課題研修を中心に、各種研修を計画的に推進することができている。 教職員数が少ないため、一人ひとりが担当する校務分掌が多く、各部の部員も少ないため、充実した取組にすることが困難である。同時に働き方改革の観点からも、取組の精選を図ることも課題である。	G・S 探究や人権教育を柱とした学校課題研究の充実 行事や校務分掌の仕事の見直しを図る。	・人権尊重を基盤とした授業づくり。 ・研究発表会へ向け、授業づくりを中心に、研修計画を立て、組織的に準備を進める。 ・会議等可能な限り書面にし、行事の目的と実施による負担度を鑑み、次年度に向け精査していく。	・市委嘱の研究発表会の開催(11 月 22 日) ・学校評価「思いやりの気持ちをもって学校生活をしている」の肯定的回答 90%以上。 ・毎週水曜日をノー会議デーとする。				
6	日々の清掃活動においては、子どもたちと教職員が一緒になって取り組むことで、みんなが美しい環境づくりができている。校内の掲示物等の充実、業務の多忙化につながることもあるため、質の向上は図りつつも、継続できるものにしていく必要がある。	教科担任制を生かしたカリキュラムマネジメントの充実 清掃や掲示物の工夫による学習環境の整備	・高学年を中心に教科担任制を取り入れ、系統的で質の高い授業を行う。 ・掲示計画のもと校内掲示を充実させる。また、掲示計画の見直しを図る。	・学校評価の児童アンケートにおいて「学校で勉強したことが分かる」の肯定的回答 90%以上。 ・学校評価の保護者アンケートにおいて「施設・設備等落ち着いた環境づくり」の項目で肯定的回答 100%。				